

第 24 号  
平成元年11月28日

発行 大森工場協会  
編集委員会  
東京都大田区中央2-11-10  
TEL 03(771)4744・(772)6474  
FAX (772) 9340  
印刷 城南印刷工芸(株)  
TEL. 03 (752) 3 3 9 1

役員も労災保険に  
加入できる  
労働保険事務組合

# 大森工場協会会報

社団法人



北京市機械工業管理局 局長 李 舜氏 YMクラブ幹事長 舟久保利明氏 中国技術進出口 総公司・北京市公司 総経理 翟 新氏

## ——中国人研修生受入れ問題について—— 日本と中国と協会 三者の利益を追求

（株）昭和製作所 舟久保 利明

最近世間を騒がせている中国からの偽装難民の問題は、正規のルートで外国人労働者を雇用することを困難にしている。もともとパスポートの種類としての留学生（就学生）ビザ、観光ビザ等が実質的には労働ビザに転嫁され、他方日本の法務省の方針が労働ビザの全面的禁止ともいえる状態を続けようとしていることと相俟って、事態は複雑化してきている。研修生ビザというのも本来的には日本の国益にマッチした条件付のビザである。だが、それは観光ビザ、留学生（就学生）ビザとは異なり、ある意味では合法的に労働ビザにとって代わり得るものなのである。

今回我々大森工場協会が行おうとする中国研修生招聘の運動は、建て前としては、日本の法務省の立場からは、日本の国益に合致する技術者の育成が必須であり、中国側から見れば、中国の国益に合致する技術者の育成及び外貨の獲得が眼目であり、我々について言えば、要するに現在の労働力不足を補おうとするのが目的である。こうした三者二様の思惑がある中で、合法的に物事を推進するためには、第一義的には日本の法務省の入国管理局の厳格なる規定をパスしなければならぬ。即ち、問題を整理してみれば、この研修生招聘に際しての手続きは、色々な立場からの本音と建て前が複雑に絡み合った状態を明確に把握することにありたい。

（\*4Pに解説）

## 大田の工業を守る道を模索

# 人材不足を打破！

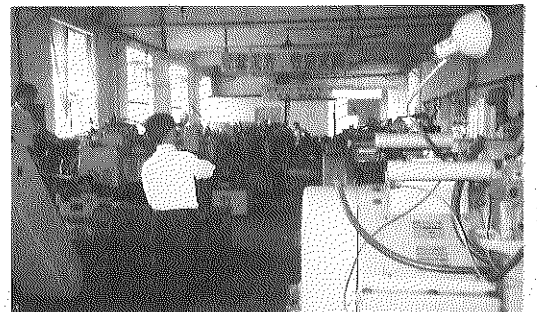
YMを中心に訪中、意向書に調印  
中国人研修生受け入れ  
●中小企業も技術指導で  
アジア工業圏参加を●

最近において求人倍率が急速に高くなり、人材不足倒産の噂が流れる一方、若者たちは格好の良い職場へと走り、その結果、製造業を営む経営者にとっては、人材確保が困難な情勢になってきている。この状況下で、逸早く行動を起こしたのがYMクラブである。

### アンケートから始まる

平成元年4月 定期総会において、外国人労働者問題についてのアンケート調査を行ない、出席者23名

から回答が寄せられた。  
★あなたの会社は外国人労働者を雇用する意思がありますか  
○有り 12社  
○無し 11社  
★外国人労働者の雇用問題について、YMクラブが何らかの行動をとる必要があると思いますか  
○思う 16社  
○思わない 7社  
出席クラブ員の70%が、この問題について関心を抱いていることが判明し、早速、外国人労働者雇用問題の研究会が発足した。



北京起重機器廠

平成元年6月 情報収集や検討会が熱心に続けられているとき、二つのルートから中国人労働者（研修生）の話が持ち込まれた。  
（株）旭製作所の丸山社長が所属するアイスホッケーのクラブが、遠征試合で中国の東北地方に行き、その折現場の工業関係者との会談で出た話の一つであり、今一つは（株）大田工業連合会に北京市の関

### 催し物のお知らせ

## 平成2年 新春賀詞交歓会

協会主催

1月22日(月)、大森東急インにおいて下記の通り開催決定。

☆記念講演会(PM5:30~7:00)  
テーマ・講師は未定。

☆懇親パーティ  
講演終了後、引続いて開催。  
○夫人ご同伴を歓迎します。  
○講演会のテーマ及び講師は会報新年号でお知らせします。



北京鍛圧機床廠にて

訪中、決まる  
平成元年7月 中国側から中国人  
（株）昭和製作所 舟久保利明  
（株）旭製作所 丸山 旭  
三力工業(株) 入沢 英明  
へ4Pにつづく

# 労働時間改善研究会

## 48時間→40時間へ！ 時短のとらえ方と難題を 乗り切る法

☆平成元年7月14日(金)  
協会会議室  
参加13社

戦後、日本経済の発展は勤勉をモットーとする国民性によって、成し遂げられてきたが、働く事は美德の考え方から、昨今は働き過ぎると他国への経済侵略として、ジャパン・バッシングにあつた時代になってきた。

そのような背景による法定労働時間の過48時間→40時間への移行は、最終目標到達までには今後約6年位の猶予期間はあるものの、中小企業にとっては、短納期・低コストとの板挟みである。

“実質的な賃上げになる”  
“親会社の要求に応じる為には、土曜日も休んではいけない”  
等の切実な訴えも聞かれた。

世界の趨勢とはいえ、時短は中小企業にとっては死活に繋がる大問題であり、理想と現実とのギャップは激しい。

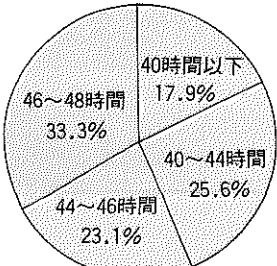
しかし、法によって定められた以上は、今後如何にして40時間労働体制へスムーズに移行整調する



も積極的に採り上げれば、協会として会員サービスになる事を痛感。



大森税務署・法人税第一担当 調査官に概要を聞いた後、質疑応答、記者の頭では理解しきれないやりとりが飛び交う。各会社の経理部門の人が多く、流石と感心する。2時間半の長丁場の為、休憩が入る。その時の話では消費税の講習会は既に他所でも受け、2度目・3度目の人も多かった。関心の高い問題は他と重複して

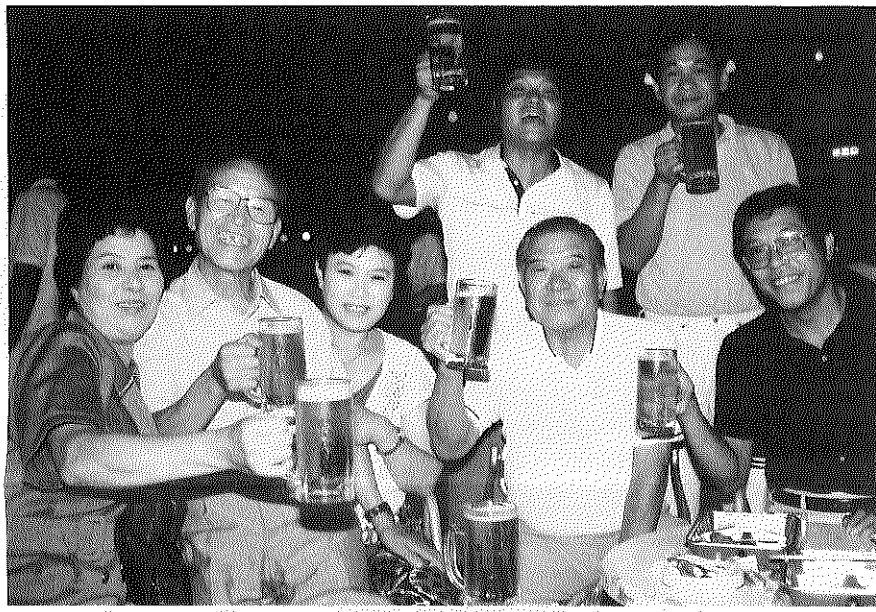


1週の所定労働時間数  
(大森工場協会39社調べ)

かを、好むと好まざるに拘らず真剣に考えねばならない。

協会でも、2月13日に大田労働基準監督署担当官による時短の背景と段階的短縮法についての説明会を開催したが、その後も監督署の要請によって、平成年度の労働時間改善研究会を左記の通り開催した。

第1回 7月14日(協会会議室)  
第2回 9月20日(産業会館集会所)  
なお第3回目(12月初旬)開催の予定になっている。



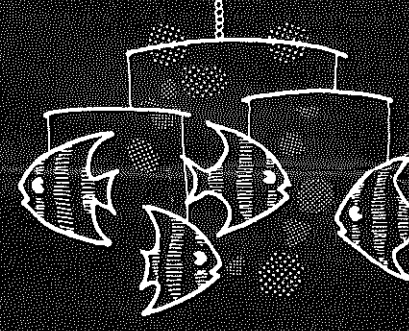
この風も、連日の暑さに痛めつけられた工業人には、ビールを飲み干す為のフォローの風。なおさらにピッチがあがる。

一年振りの出会いもあり、ビールの介添えで臨時のカップルも誕生する。おつまみがイマイチとの声も聞こえたが、福引が始まる

と自分の番号を叫んでの当れコーナーで会場は最高調。一等のトラベル・シーバーの抽選者が決ったところで着なく終宴へ。



# 平成元年一写 いろいろ 行事が



## 納涼会

### ビールで深めよう！ 会社の和とコミュニケーション

☆平成元年8月23日  
アサヒビール屋上ビアガーデン 参加125名

時折の突風で、工場協会旗が大きく揺れ、受け付けて受取り損ねた上を一目散に駆けめぐる。



## YMクラブ例会

### 本音で話そう！ 賃上げ&社員をヤル気にさせる

賃上げ率・時期・査定等の方法や悩み、率直な意見の交換が行われ参考になった。オプザバーとして出席したOBの第一光機(株)・片山社長によるミニ講演“社員に欲を持たせヤル気を起させる法”はユニークな発想と現実に裏打ちされた説得力で、生産性が上り好結果が出ている事に多大な関心が集まった。



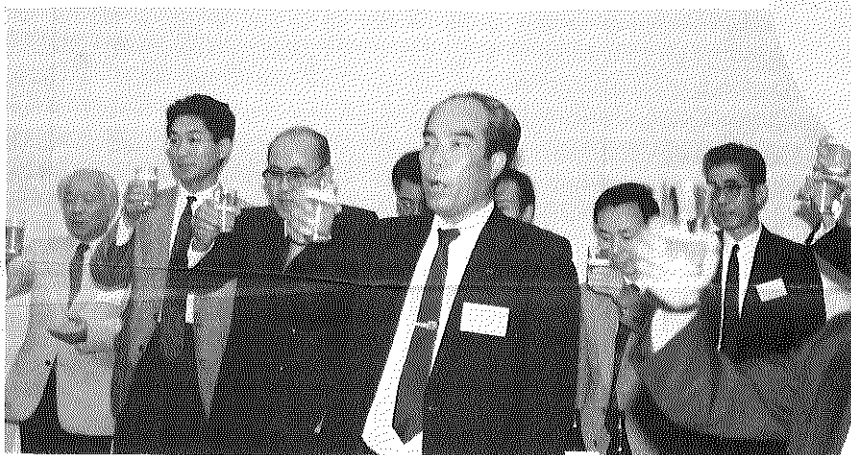
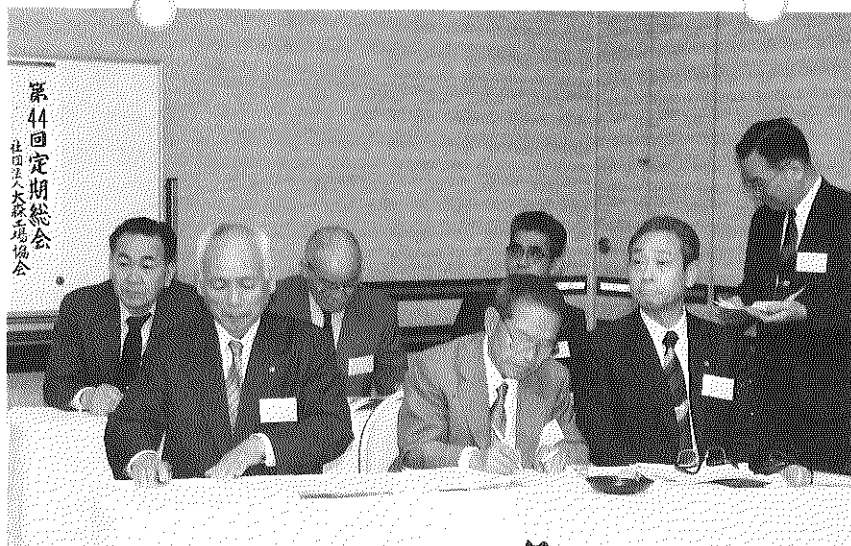
# 第44回定期総会

## 一年の計は総会にあり 会員の憩も総会にあり

☆平成元年5月24日(水)  
大森東急イン 参加58名

「大田区工業が発展していく上で、難関が山積みされているが、会員の力と智慧を合わせれば乗り越えられる」との木村会長の挨拶に引

き続き、大田区長代理、佐藤助役より、「大田区工業の構造的変化と展望に対し、行政施策の対応はどうかあるべきか、又、工業が繁栄



していくには、周辺環境はどうあったらいいかを検討課題に取り上げ、積極的に取り組んでいる」と

の力強い挨拶があった。議事進行も、第一号議案〜第四号議案迄、審議を無事終了し、懇親会へと移った。

名刺を交換する人、話のはずむ人、カラオケで喉を披露する人等々懇親会場は和やかな内に盛り上りをみせた。

# 消費税説明会

## 実施前後に悲鳴も聞こえたが、今は好景気の陰で?????

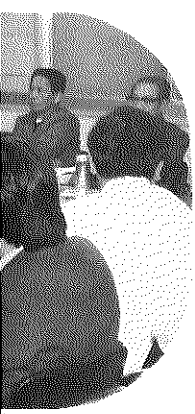
☆平成元年3月13日  
入新井出張所 参加48名

売上税から消費税へ。多分また廃止されるものと思ひ込み、たかをくくって不勉強。がなんとなく怪しい雲ゆきにあわてて協会主催の説明会に参加する。



# 真で見る工場協会 なりました Let's join

大森工場協会の平成元年、を写真を中心に追いかけてみました。色々数多くの行事がありました。その中のいくつかをピックアップしてみました。あまり会合に出席頂けなかった会員の方々に、面白い企画がある。偶には覗いてみようかな。と思って頂ければ幸いです。



平成元年もYMKクラブの月例会は種々の会合を開いた。  
(3月)○消費税についての情報交換  
(7月)○不良品製作の事例と防止対策  
(11月)○人手不足と外国人雇用問題、等  
その中でも5月に開かれた例会は、賃上げの季節が終った時点でタイムリーな企画であった。

☆平成元年5月13日(土)  
協会会議室 参加16名



# 見学会

## サロンカーでディスカッション! 短納期・低コストを図る 優良工場を見学

☆平成元年9月26日(火)  
見学先・(有)徳山精機  
(山梨県都留市)  
参加21名

中央高速を走るバスの中で約2時間、雇用問題、特に中国人研修生受け入れ問題について、現地視察から戻ったばかりの、昭和製作所・舟久保利明社長と旭製作所・丸山旭社長より、ピ



デオを交えての説明を聴きながら一路目的地へ。  
今回、見学した(有)徳山精機は(株)妙徳の関連会社として、創造力と情熱の結合をモットーに、着実に業績を伸ばしている会社である。  
短納期に出来る為のコンピュータ管理の伝票の流れや低コスト実現の為に創意工夫された機械設備を(株)妙徳の伊勢社長の案内で見学した。帰路のバスでは、ディスカッションを続ける人もいたが、日頃の疲れと日帰り研修の強行軍に一時の安眠に浸る人も多かった。

アポロ通信工業(株) 中道 金吾  
以上の4名のほかに  
オブザーバー(株)大田工業連合会  
事務局長 野上浩民氏  
アドバイザー(株)昌栄 社長  
新城盛保氏  
の2名が同行、計6名が訪中団のメンバーであった。

平成元年9月 13日に成田空港を出発し、17日には帰国という慌ただしい訪中ではあったが、その間工場見学4社、関係官庁3ヶ所の訪問を行い、最終的に「意向書」の調印にまで漕ぎつけた。

一行は行く先々で北京市工業関係の人々に絶大な歓迎をうけ、その誠実なもてなしは、信頼に足るパートナーとの感を深めて帰国した。

### 実現へいま一歩

平成元年9月 19日、中国技術進出口総公司・北京市公司の諭 忠厚氏とYMクラブとの間で、中国で取り交わされた意向書から一歩進んだ「覚え書」が調印された。

平成元年10月 17日、中国でお世話になった前記の諭 忠厚氏ほか2名が、大田区産業展及び都立産業貿易センターでの北京市経済貿易展示会の開催で来日したのを機会に、大森工場協会を客礼訪問された。

一行は協会側代表と友好的に懇談し、これを機会に会館会議室に中国製工場用消耗工具の展示場が常設される運びとなった。

次いで一行は、(株)昭和製作所、(株)旭製作所、アポロ通信工業(株)を見学し、進んだ技術と作業能率の良さに感嘆したが、狭い場所に数多く置かれた機械群に、中国ではもつと余裕をもって工場が作られているという、広大な土地を持つ中国らしい感想も付け加えられた。

その後一行は、中国人研修生が受け入れられたときの宿舎等も見学し、十分に満足して帰国。

24日、YMクラブの代表が法務省人国管理局に意向書、覚え書等の書類を持参し、趣旨説明を行ない、鋭い質問のやり取りの後、何とか同意を取り付けることに成功した。

26日、北京市工業局へ法務省の同意を伝えると、折り返し研修生推薦用の履歴書を送る旨を伝えてきた。



### フット・一息

## 花と写真家

モデルは山形製作所の小林社長。工場見学会の休憩の合間、熱心に被写体を求める所をパチリノゴメンナサイ。尚、小林社長は第22号で巻頭を飾った「風」の写真の撮影者です。

以上が外国人労働者研究に始まって、中国人研修生受け入れという現実へ推移した経過である。新聞、TV等で外国人労働者問

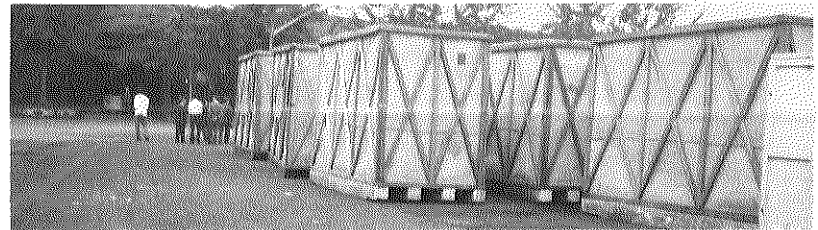
### 答礼訪問で工場見学

く置かれた機械群に、中国ではもつと余裕をもって工場が作られているという、広大な土地を持つ中国らしい感想も付け加えられた。

その後一行は、中国人研修生が受け入れられたときの宿舎等も見学し、十分に満足して帰国。

24日、YMクラブの代表が法務省人国管理局に意向書、覚え書等の書類を持参し、趣旨説明を行ない、鋭い質問のやり取りの後、何とか同意を取り付けることに成功した。

26日、北京市工業局へ法務省の同意を伝えると、折り返し研修生推薦用の履歴書を送る旨を伝えてきた。



① 万里の長城を背景に  
② 中国竹製のコンテナ



中国代表团、熱心に見学  
旭製作所で

## 工場用消耗工具類 取り扱いについて

(株)旭製作所 丸山 旭



会議室内展示場

円高の影響に伴い中小企業は親会社のコスト・ダウンの要請に従わざるを得ず、日常経費の節減、VA活動、合理化運動等に取り組んできた。その中で、工場の直接の経費の大部分を占めるものは、切削工具、砥石、計測機器、ヤスリ等の工場用消耗工具である。

中国において、その類いのものは非常に安価であると言ふことを人伝に聞き、実際に現地を見学しようという事になった。(株)大森工場協会の若手を中心とする訪中団が結成され、現地へ赴き見学した結果、日中

双方で場所を提供し合って相互に展示場を開設し、ゆくゆくは輸出入業務を行うという意向書を取り交わした。

中国の工業用消耗工具は、西独等にも輸出され好評を博し、対外的に認められているものの、寸法がインチ・サイズであったり、日本の実情にあわなない面もわずかながらある。

そこで、これ等の生産に携わる人達が直接日本で研修したらどうかという話が出てきた。そうする事によって我々の要求にかなった製品が中国から輸入でき、

題については、鎖国か開国か、様々な議論がなされているが、若年労働者の三次産業への流出が続き、中小の製造業へは職安・求人誌・新聞等で求人活動をして、日本人が集まらないのが現実の状況である。

YMクラブの舟久保幹事長も言っているように、日本の国益、中国の国益、工業経営者のメリット

と三者の条件を整えば、大田区の工業が存続していく上でも、外国人労働者受け入れは重要な要素であり、YMクラブを中心とした今回の中国人研修生受け入れに對す

親会社からのコスト・ダウンの要求に少しは応えられようと考えられるからである。更に欲をいえば、将来的には合弁事業を起し、相互の技術交流を通じて、日本の工業に寄与したいと考えている。中国の膨大な市場は必ずや現実のものとなるろうし、我々のこれからの行動は今からでも遅くはなからうと思うのである。

### 編集者註

## まず隗より始めよ

【先づ隗始】 ①賢者を得まずそれほどすぐれてもいない私、郭隗(カクカイ)を重く用いなさい。そうすれば、自分よりすぐれた人物は自然に集まる。

▽中国の戦国時代、郭隗が、燕(エン)の昭王に述べた意見で、そのとおりにしたら各地の賢者が集まったという。「隗始(カイ)よりははじめよ」とも。「国策・燕」②(国)大きな物事するにはまず身近なことからはじめよということ。また、物事をすすめるにはまず自分からはじめよということ。

積極的且つ現実的な活動は、各方面から大きな期待と共に注目が寄せられている。